（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1270101825		
法人名	株式会社ユニマットそよ風		
事業所名	大森台ケアセンターそよ風（かすみ）		
所在地	千葉県千葉市中央区大森町２５０－１		
自己評価作成日	２５年２月１３日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5－6－12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

㈱ユニマットそよ風の「大丈夫　そよ風ががあるから」のスローガンをモットーに、尚且つ、地域に「大森台そよ風があるから大丈夫」といわれるようなセンター作りをしていきたいと思っております。御利用者様1人1人の状況に沿って対応し外出・外食も多く取り入れている。また外気浴・お散歩も日課になっており、生活にメリハリがつくように心掛けている。近隣の方々とは挨拶を交わしたり野菜を頂いたりごく普通の近所付き合いをさせて頂いている。今後は散歩時にゴミ拾いなどを取り入れ地域貢献も出来たらと考えております。保育所とも運動会に見学したりセンターに立ち寄って頂いたりと交流がある。24時間の訪問看護と契約を結び、医療の強化を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホーム独自に「希望を実現しよう」を理念に掲げ、職員間で共有しながら一丸となり取り組んでいる。日々の支援では、外出活動の充実に力を入れて取り組み、お花見や外食、テーマパークへの外出、いちご狩り等の外出行事のほか、利用者の意向や要望に応じ個別での外出などを通じ戸外活動の充実に取り組んでいる。職員の知識や技術の向上に向けては、認知症高齢者へのアプローチや介護技術等の研修を通じスキル向上を図っている。今年度途中より新センター長となり、認知症の理解を職員に深めていくと共に全職員で力を合わせ明るいホーム作りを目指している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のニーズと意思を尊重し「希望を実現しよう」という理念をかかげ、職員一同取り組んでいる。	事業所独自の「希望を実現しよう」という理念と会社の「そよ風憲章」をミーティング等で唱和することによって、その理念を管理者と職員が共有していく体制を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外へ出た際に近所の方と挨拶をかわしたり、立ち話をするような光景がみられている。また、近所の方から野菜の頂きものをすることもある。近隣の保育所との交流で、運動会などに招待され、見学にいった。	自治会に加入し、お祭り等自治会行事への参加や近隣保育所のイベント（運動会、人形劇等）への参加、中学生福祉体験・短大生の実習の受け入れや2ヶ月に1回歌や踊りのボランティアを受け入れている。	地域との交流がより深まっていくように、ホームの取り組み等を積極的に地域に発信していく事を検討しており、様々な取り組みを通じて、交流がより深まっていく事に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れを行った。地域でのイベントには、積極的に参加するように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、出た意見をもとにサービスの向上に取り組んでいる。会議内では、質疑応答の自時間を設けている。	会議は2カ月に一度開催し、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族の参加を受け、サービスの状況や行事、研修、人事異動等について報告し、話し合いを行い、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、あんしんケアセンターの職員、民生委員の方に出席していただいて、意見助言を頂いている。	市との連携では、事故報告等の提出時に助言を頂くほか、地域包括支援センターや民生委員の協力を得てケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、オートロック式ですが時間を決めて施錠を解除する等の工夫をおこなっている。また、身体拘束に関する勉強会もおこなった。	「身体拘束廃止、高齢者虐待防止委員会」をリーダーで構成し、身体拘束の廃止、高齢者虐待の防止の研修（3ヵ月に1回）を実施している。現状、身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会の参加を促し、防止に努めている。		

大森台ケアセンターそよ風（かすみ）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しての研修の参加を促すとともに理解を深めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項、契約書を丁寧に読み上げ時間をかけて、説明をしている。不安や疑問点などが残らないように誠実な対応を心掛けている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が来所された際は、ご意見ご要望を聞くように努めている。また、ご利用者様の要望は、ミーティング等で話し合い取り入れるようにしている。	家族からの意向や要望については面会時のほか、ケアプラン検討時の担当者会議や運営推進会議等で来所された際には、個別で話し合いの場を設け、それらを会議等で吟味の上、意見や要望を運営に反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とは定期的に面接を行うようにしている。その他、職員の意見には耳を傾けその都度話し合いを行っている。	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会として個人面談（半年に1回）を設けている。そのほかミーティングでの意見交換やスタッフ親睦会を実施することによって意見を収集し、それを反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課表により実績評価を行っている。また、信頼関係のおける人間関係の構築や働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員にあったそれぞれのレベルでの研修の参加によりスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支社内での研修の参加を促し、他センターとの交流ももてるようにしている。		

大森台ケアセンターそよ風（かすみ）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は、環境が変わるため話しを良く聞き不安を取り除けるように傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想いを受け止め、要望等があればそれを取り入れていく事で、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の状況を見極め、必要に応じて訪問リハビリの導入、福祉用具の活用などを検討し導している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の大先輩という意識を持ち、生活の知恵などを学ぶ場面も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも担当者会議に参加していただくことによって、日常生活の様子を伝えたり、ご家族様の要望などを伺っている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行く方や、古くからの友人と手紙や電話のやり取りをしている方もいる。	行きつけの美容院へ通ったり、友人の面会や電話、手紙等でこれまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、利用者同士で良い関係が築けるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入居された方の面会へ行ったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度利用者の希望を取り入れるよう検討している。また、意思疎通の困難な方は、表情を推し量るよう努力している。	日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、ご利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活履歴や習慣を伺うようにし、多くの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックをしっかり行い、体調管理に努めている。出来ることを見極め、自立支援をこころがけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議では、御本人、家族、計画作成、居室担当が参加し、意見を出し合いプランを作成している。	利用者の課題や状況をアセスメントにおいて収集し、担当者会議において家族、職員の意見を収集しケアプランに反映している。ケアプランで掲げた目標における利用者の満足度等についてはモニタリングの中で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調等はケース記録に記入している。、情報の共有については、申し送りノートを活用し、ミィーティングなどで話し合いをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に合わせ、外食をしたりしている。また、必要に応じて訪問理美容、訪問看護、訪問リハビリなども利用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、近隣の保育所との交流もある。定期的に、習字の先生にボランティアにきていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医を受診する方や往診を利用する方もいる。家族が受診の対応をする場合は、状態がわかるようバイタルチェック表や状態を書いた手紙を渡すようにしている。	受診は本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を家族の協力を得ながら築き、適切な医療を受けられるようにしている。また提携医療機関の往診（月2回）を構築しているほか、訪問看護（3事業所）と連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週一回の来訪があり、利用者の体調管理をしていただいたり、相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときには、こまめにお見舞いに伺うようにし、状態の把握に努めている。また、医師と看護師との情報の共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切にして、安心して納得のいく最期がむかえられるよう取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、契約段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明している。重度化を迎えた際には、医師や家族と共に今後の方針を検討し、本人本位の支援が図ることが出来るように取り組んでいる。	ホームでは、「重度化した場合の対応、看取り対応に関する指針」の基づき、説明を行っているが、説明した際の同意書について全利用者分揃っているか再度確認が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署で行っている救急救命講習に職員に参加し、技術・知識を身につけてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は、年に2回実施。時間帯は、昼夜を問わず設定している。地域住民との協力体制の構築は、今後の課題となっている。	防災訓練については年2回実施しており、地震を想定した避難訓練のほか消防設備に関しても定期的に点検している。また災害用備蓄品として、水、カンパン・缶詰・レトルト食品、ヘルメット、防災頭巾を準備している。	地域の協力体制の構築の強化や災害後において、ご家族に利用者の安否をどのように報告していくか、具体的な連絡体制の構築が望まれる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄の際は特にプライバシーに配慮している。年配者として、人格を尊重した声かけを心掛けている。	接遇マナー研修を実施し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや居室への出入りに配慮している。万一、不適切な言葉かけや接遇を見かけた管理者や職員はその都度注意することを励行している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間には、好きな飲み物を選んで頂いたり、食事もリクエストを聞きそれに応じたメニューにすることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に合わせ、起きる時間が遅い人や体調に合わせ食事の時間をずらしたりすることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望によっては訪問理美容を利用の際に髪を染めたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は、職員、利用者共に食事を摂り会話を楽しんでいる。食事の片づけ洗い物を一緒に行うこともある。	利用者一人ひとりが出来る範囲で協力しながら、職員と一緒に準備や食事を楽しむことができる様に支援している。メニューは事業所で作り、それに合わせて食材を発注している。ソフト色の提供もあるがペーストでも食材の形が残る様に配慮し、ご利用者の好みに合わせて調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、管理栄養士が作成し、バランスの摂れたメニューになっている。その人の食事形態に合せて、刻みやミキサー食、ペーストで対応している。水分の摂りずらい方には、ぜりーや寒天で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを実施している。ご自分で出来る方は、声掛けをしてご自分で歯を磨いてもらっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、一人一人に合わせ介助をしている。排泄チェック表をみながら、排泄パターンを掴み誘導が必要な方を誘導し、失敗を減らせるようにしている。	一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を排泄表によりチェックし、声かけによりトイレに誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、食物繊維を多くとってもらうように工夫している。また、体操や散歩など身体を動かすよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、入浴日を設けている。入浴の拒否が見られる場合は、無理には入れず、時間や日にちを変え誘導している。	入浴に関しては、一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、1日置きに入浴できるように支援しているほか、入浴中は職員が介助につき、安全性にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせ、日中帯に居室ベットで休む方もいる。また、夜ぐっすりと眠れるように、日中帯に適度に身体を動かせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、薬表をとじ込み、薬の内容をスタッフが把握できるようにしている。また、受診や往診時に体調の変化などは相談し、薬の調整をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いなどをしてくれた際は、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、希望に応じて外食したり、外出の支援をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に合わせて外出している。外食やドライブなど個別で対応をあいている。	天候のよい日には、ホーム周辺の散歩や玄関前で外気浴を行うほか、お花見や外食、テーマパークへの外出、いちご狩り等外出計画を企画し、定期的に戸外に出かける事が出来るように支援している。	

大森台ケアセンターそよ風（かすみ）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力のもとご自分でお金を所持しており、お孫様が来た時にお金をあげるのを楽しみにされているかたもいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ電話はかけられるようにしている。また、季節に応じて暑中見舞いや年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるような空間づくりに努めている。また、食事の際は、BGMをゆったりとした曲にするなどの工夫をしている。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮されており、行事や季節に合わせて装飾したり、掲示をして生活感や季節感を採り入れてゆったりと居心地よく過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーには、ゆったりとしたソファーを置きくつろげるようになっている。また、庭にもベンチ、テーブルを置き憩の場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込んで使用して頂いている。また、写真を飾ったり、花を飾ったりと一人一人が安らげる居室になっている。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものを持参いただき、利用者が居心地よく過ごせるように職員が整理整頓に努めるなど支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター内はバリアフリー対応しており、手すりも取り付けられており、安全に考慮した設備になっている。		